

メーヌ浜

沖縄戦の始まりの場所

メーヌ浜は、阿嘉島にある阿嘉村のすぐ前にあるビーチです（この名前は、沖縄の方言で「前のビーチ」という意味があります）。1945年3月26日の朝8時4分、米軍77歩兵師団第305戦闘旅団の第3上陸大隊がここに上陸し、沖縄戦が開戦しました。

現代の米国の記録によれば、日本兵と朝鮮人労働者が島の山側へ逃げ込む前に上陸部隊が遭遇したのは、無害で「散発的な迫撃砲と機関銃の砲撃」のみでした。300人の日本人部隊と民間人400人が逃亡中ではあったものの、米軍はその日の午後5時までに島の3分の2を制圧しました。

同日、米軍は他の慶良間諸島へと立て続けに侵攻し、8時25分に慶留間、9時に座間味、9時21分に外地、13時41分に屋嘉比へ上陸しました。さらに大きく、離れた位置にある渡嘉敷への侵攻は、1日遅れで27日の9時11分でした。

慶良間諸島には波風をしのぎやすい自然の内海を多く有することが米軍が侵略地として選びました。侵略の後、慶良間は水上飛行機が離陸し、船が燃料補給や修理をするための海軍基地になりました。

シジ山への逃走

3月23日に海軍による砲撃が始まった時、島民は陸の侵攻が目前に迫っていることを悟りました。結果として多数が奥地へ逃げ込み、後からそこに日本兵も加わりました。彼らが避難場所としてシジ山を選んだのは、その険しい地形が海と空からの砲撃に対して自然の防壁になったからです。

山中では、避難民たちは木やワラで小屋を作り、川の側に石で調理場を組み立てました。一方で日本軍の後方部隊は間に合わせの基地を作り、長期戦に備えました。この期間、島民と兵士はツワブキやクワの葉、サツマイモの茎を食べて飢えを凌ぎました。夜になると忍んで村へ戻り、貧しい食事を補うために食料を盗みました。

避難生活があまりに悲惨だったため、多くの人々が自ら米軍へ投降しました。日本が降伏した一週間後の8月23日に最後の避難民が降参した時、シジ山に残っていたのは20家族、80人のみでした。

Reference: U.S.ARMY CENTER OF MILITARY HISTORY. (2001). Chapter II: Invasion Of The Ryukyus. Retrieved from <https://history.army.mil/books/wwii/okinawa/chapter2.htm>